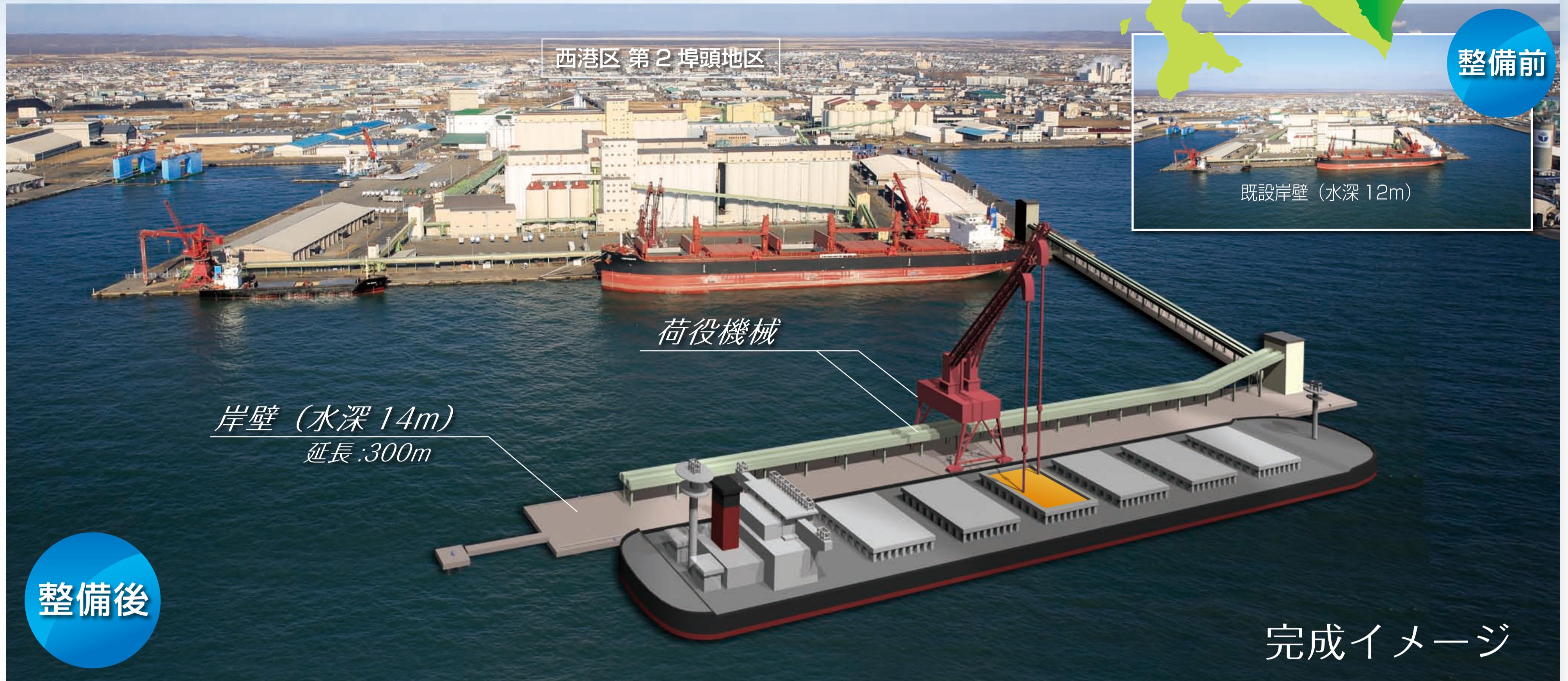


# 釧路港 国際物流ターミナル整備事業

## 事業概要



## 事業の目的

全国の約4割の乳牛を飼養し、生乳・乳製品の一大産地である東北海道を背後圏とする釧路港は、西港区第2埠頭地区に飼料工場等の関連企業が集積しており、とうもろこし等の飼料原料を年間約165万トン(H25)取扱っています。しかし現在、岸壁水深が12mであるため、近年の船舶の大型化に対応できず、現在主流のパナマックス船(6~8万DWT)が満載で入港することができません。

また、釧路港では穀物輸送のために年間約480隻(H25)の船舶が入港しています。しかし、第2埠頭が混雑していることから、荷役機械の無い他埠頭に着岸し、移動式クレーンで荷下ろししトラックで陸上輸送する非効率な荷役が行われています。

このため、本事業において新たに岸壁(水深14m)などを整備することにより、船舶の大型化に対応するとともに、必要な岸壁延長を確保することで、より効率的な輸送体系を実現することを目的としています。

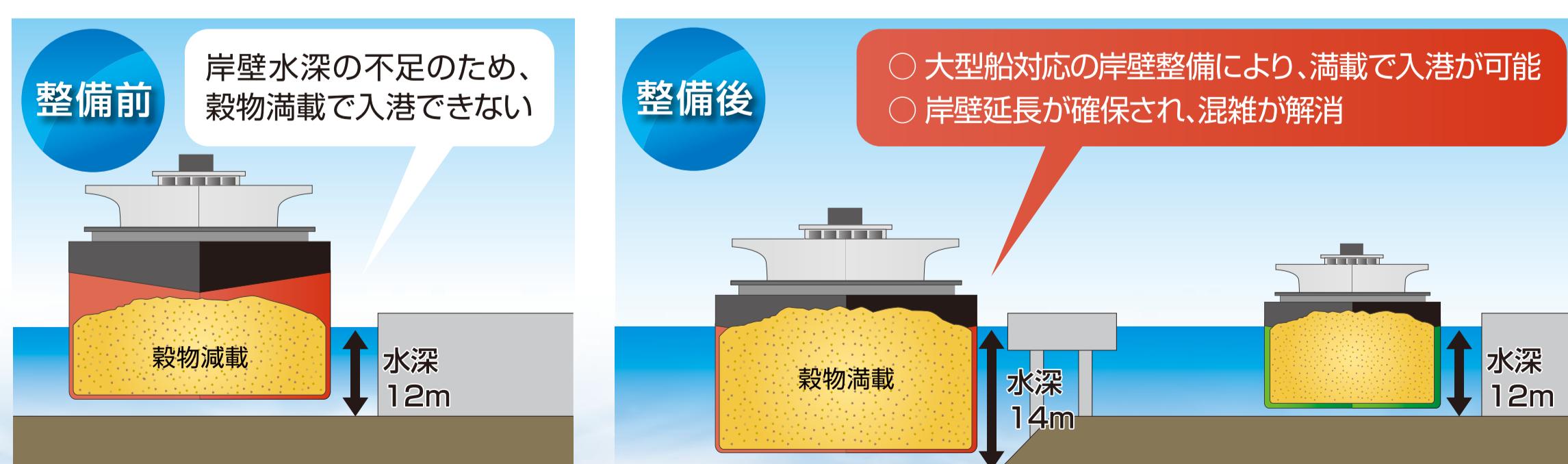
## 事業の内容

整備施設 岸壁(水深14m)、泊地(水深14m)、航路・泊地(水深14m)、荷役機械  
事業期間 平成26年度～平成29年度

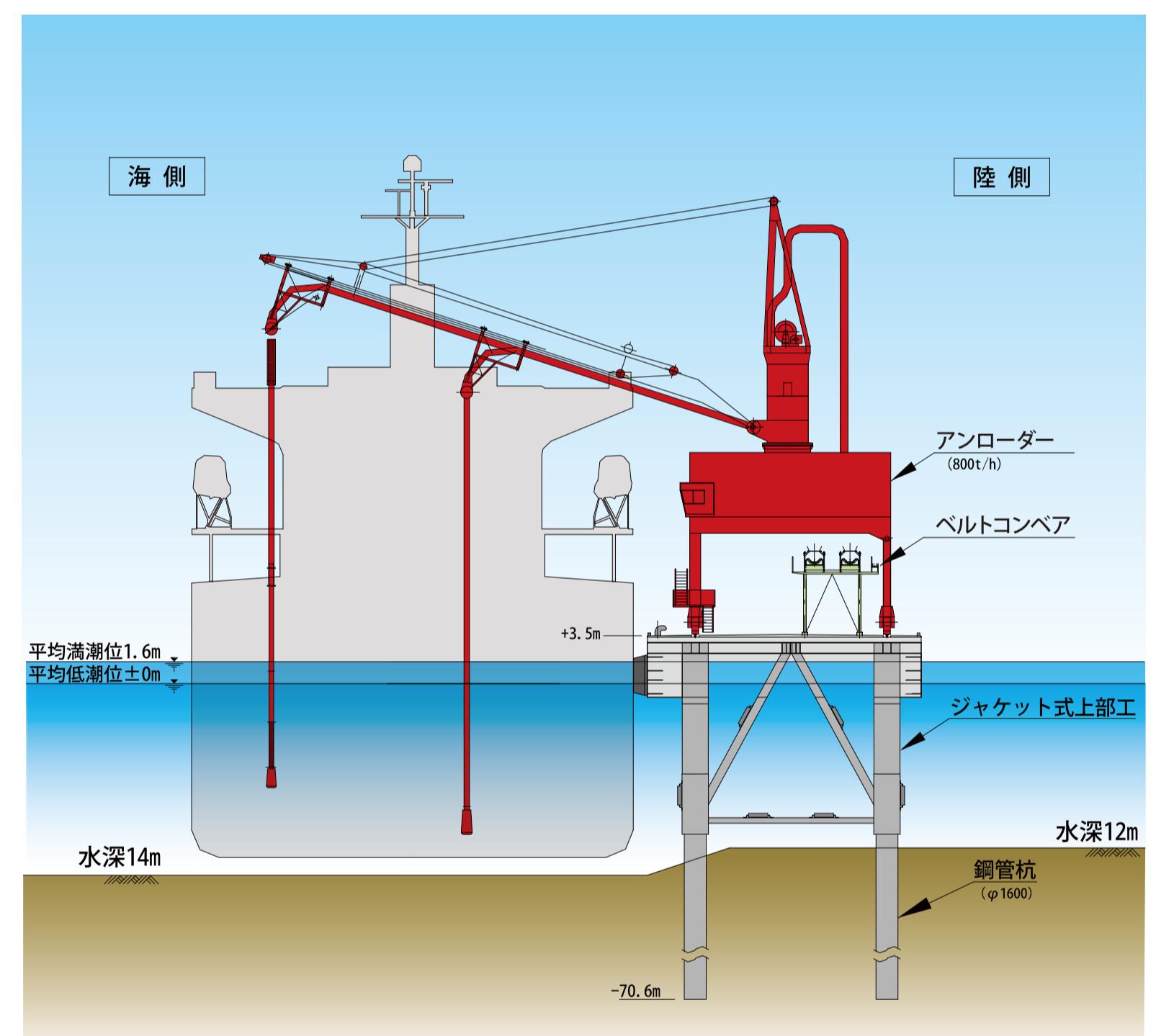
## 整備効果

パナマックス船に対応した岸壁の整備により、水深不足のために積荷を減らして入港していた整備前と比べて、1回あたりの輸送量が増加し、海上輸送回数を減少させることができます。さらに、新規岸壁の整備により必要な岸壁延長が確保されることで、これまで混雑のために他の埠頭で非効率な荷下ろしをしていた船舶は、第2埠頭にて専用の荷役機械で荷下ろしができるようになります。

このように、本事業によって効率的な輸送体系を実現することで、飼料原料の物流コストが低減され、酪農生産の安定化に寄与します。



## 岸壁(水深14m)標準断面図



## 連携による輸送体系の構築

穀物の輸入元である北米に最も近い釧路港における大型船に対応した岸壁の整備によって、企業間・港湾間の連携が進んでおり、釧路港を拠点とした苫小牧港・八戸港・石巻港・新潟港の4港湾との連携輸送による効率的な輸送ネットワークを形成することが計画されています。

